

日本語を母語としない子どもたちとともに

JSL 日本語指導教育研究会通信

JSL (=Japanese as a second language)

平成31年2月第9号

発行者 会長 熊本 修治

日本語指導教育研究会 事務局

第10回研修会

全体研修1 会場校 ・東箱崎小学校の取り組み 東箱崎小学校 上田渉先生

東箱崎小学校では、現在55名の外国とつながりのある児童が在籍しています。担任の先生方と連携し、年度当初に日本語指導の取り出し時間割を決められています。今年度実施された子どもフェスタでは、モンゴルの馬頭琴の紹介を行いました。JSL児童が特別に扱われるのではなく、JSL児童が自然に溶け込み、生活しています。

・内浜小学校の取り組み 内浜小学校 平山先生

内浜小学校では、日本語教室配置校である内浜小学校と拠点校（通級教室）合同でJSL児童保護者を対象とした保護者会を実施しています。視覚教材やイラストを用いて、毎授業の板書をパターン化することにより、さらなる学習内容の定着を目指して指導がなされています。



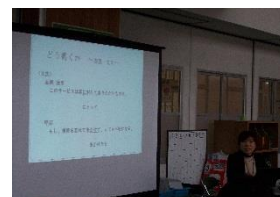
○放課後の過ごし方を保護者野方と連携しているところ、日常の出来事を保護者の方と共有しているところがいいなと思いました。

○それぞれの児童にあった指導がとても良かったです。ICTを使って、机上にいつもプロジェクターというのが、イメージ化がよくできて良いと思いました。

全体研修2 書く指導について

・博多中学校 ・横山小織先生

四技能の中の「書く」に焦点を当ててお話いただきました。書くことの過程を整理し、書く技能の指導法を詳しく紹介していただきました。「書く」という手段をつかって思考を深めることができるので、書く授業を通して、JSL児童生徒の書く力だけでなく、思考力も高められるよう工夫していきたいです。また、プロセスごとにさまざまな方法を示していただいたので、これからの書く指導につなげていきたいと思えます。



○いろいろ参考文献を教えていただいたり、どのようなやり方で教えたらいいか指導のポイントがよくわかった。具体的なお話から、中学生の作文指導についてもわかり、小学生の指導にもいかせそうです。

○グループワークで文字や文を書く指導について情報交換できたのがとても良かったです。

全体研修3 ライフデザインについて

・城香中学校 吉田憲太朗先生

日本の傾向や高校卒業後の進路についてお話いただきました。JSL生徒にとって高校入試から高校卒業までは学力面でも、金銭的な面でもかなり厳しいことを改めて感じました。進路を見据えての日本語指導の大切さを改めて感じました。



○学費や就学支援金など保護者の受ける感覚がわかりやすかった。指導する生徒にクラスの授業についていかにせることに日本社会で生活する力を身につけさせることを考えていかなければならないと強く感じました。